宿泊税の使途について
（市民アンケート・観光客アンケートから一部抜粋）

12

市民アンケート（自由意見）

【宮古島市の観光に関する市民アンケート 2023年度調査概要】
調査実施時期：2023年11月15日～12月15日
調査対象：行政連絡員が担当地区から無作為に10世帯を抽出
調査対象者数：1,110世帯／有効回答数：677サンプル

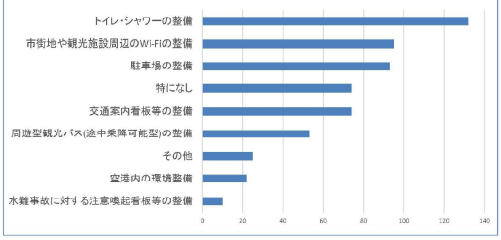
カーフェリーの必要か否への疑問、安全が優先。明日の生活を減らし、その分を賢い消費（特に必要な所・出資）へ分けてほしいと思います。
観光客が増加する中で、信号機の設置や道路標識、白線、凸凹等全く補修されていない。観光地であるならインフラを充実すべき。
街灯が少ないし、１基当たりの照度も足りないので、主要道路の街灯を増やし、明るい通りにしてほしい。
宮古空港の駐車場の料金システムが故障しても直ぐに対応しないにか、使えない。空港のアップインバー保安検査に時間がかかりすぎる。
観光施設やビーチでの駐車場確保の重要性。空港ターミナルの整備（狭い）。二次交通（バス路線）の整備。
①2つある空港内の環境整備。②道路交通看板。③ビーチの清掃。④宮古観光地としてのガイドが少ない。もっと観光に対する知識を学ぶこと。講習会を多くもつこと（高齢者対応）。
駐車場が少ない→路線バス充実が駐車場の確保。
観光地にトイレ施設が充実していなければならないと思います。佐和田の浜は壊れたままです。
宮古島内にステキな公園がたくさんあるのに整備されなくて残念
観光客のレンタカーの交通ルールのマナーの悪さによる事故が多い。クルーズ船観光客による、ごみのポイ捨てや歩道での大声。
自然環境の保全に対する不安。交通インフラの不足。スーパー等でのクルーズ船客のマナーの悪さ。
中之島ビーチの珊瑚は数年前に比べて、、魅力がなくなってしまった。1日に入れる観光客の数を限定するのはどうか。
オーバーツーリズム。交通事故の増加、交通渋滞。
ゴミ問題。生活排水等による環境破壊が強む不安がある。・ホテルプールでの水使用
観光客優先になり住民が不便を感じることがないようにしてほしい（食品不足や生活面の不便）。
市街地案内地図等の設置。
一部外国人がスーパーの買い物に不便を感じているが、受け入れ側が努力してほしい。案内板を設ける等。

13

観光客アンケート（必要な整備）

【宮古島市観光客アンケート 2023年度調査概要】
調査実施時期：2023年12月11日、15日、19日～20日
調査場所：宮古空港、下地島空港／調査対象：観光客
有効回答数：346サンプル

1-5 宮古島市を訪れる方が、さらに安心・安全・快適に観光する為、必要な施設・観光の整備はなんでしょうか？（複数回答可、いくつでも）



14

使途検討に特化した組織の設置について

15

組織について

宿泊事業者意見交換会を経て、使途の明確性がやはり最重要であると認識。
宿泊事業者や観光関連事業者など現場の意見を聴取し、宿泊税の使途についてのみの検討を行う、作業部会の下部組織の設置が必要であると考える。

法定外目的税（宿泊税）庁内検討委員会
↑ 報告
法定外目的税（宿泊税）庁内検討作業部会
↑ 報告
＜ 宿泊税使途検討チーム（仮称） ＞
構成メンバー（案）
・行政機関
・宿泊事業者
・観光関連事業者
・有識者

16

２－５．観光振興計画（2019 年 3 月策定）の進捗確認

資料3

第２次宮古島市観光振興基本計画の進捗について

令和５年８月
宮古島市観光推進協議会　事務局

1

実　績：令和４年度（20２２年度）

令和４年度の入域観光客数は、**約73万6千人まで増加**。特に空路については前年比約**169%**と大幅に伸びた。海路はまだコロナの影響が残りクルーズ船の寄港は**1隻のみ３５１人**となった。**観光収入は、約718億円で前年対比約169%**となった。

	平成30年度（2018）	令和元年度（2019）	令和2年度（2020）	令和3年度（2021）	令和4年度（2022）	2028年度（目標）
入域観光客数（人）	1,143,031	1,041,323	359,592	435,262	736,930	2,000,000
（うち空路観光客）	688,874	733,394	359,592	435,262	736,930	1,050,000
（うち海路観光客）	454,157	307,929	0	0	351	950,000
観光収入（円）	60,142,026,945	64,405,647,740	34,190,366,952	42,418,893,472	71,794,992,169	94,900,000,000
（うち空路観光客）	50,383,555,486	59,639,356,120	34,190,366,952	42,418,893,472	71,789,890,384	78,750,000,000
（うち海路観光客）	9,758,471,459	4,766,491,620	0	0	5,101,785	16,150,000
観光客1人当たり消費額（円）	-	-	-	-	-	-
（うち空路観光客）	73,139	81,320	95,061	97,456	97,456	75,000
（うち海路観光客）	21,497	14,535	14,535	14,053	14,535	17,000
入域観光客の満足度	62.90%	69.80%	62.20%	66.90%	令和5年8月公表予定	75.00%
宿泊・飲食サービス業の就業者数	1,848	国勢調査実施	1,978	-	-	3,000

＊平均総合消費額　¥87,456/人：令和3年度観光経済波及効果調査（沖縄県観光収益スポーツ部）
＊高速観光消費額　¥14,353/人：令和3年度外国人観光客実態調査報告書（沖縄県文化観光スポーツ部）
＊入域観光客の満足度：令和2年度観光客満足度調査（沖縄県文化観光スポーツ部）
＊宿泊・飲食サービス業の就業者数：国勢調査（1,848人は2015年宿泊分野）

2

総　括：令和４年度（2022年度）

観光客数については、コロナの影響による行動制限が解除され回復傾向に
- 空路の入域観光客数は令和元年度の数値まで回復。
- コロナ禍で離職した人材の呼び戻しが追いつかず、宿泊・飲食・レジャーなどの観光サービス業において人材不足が発生。
- 昨年年度まで中止となっていた各種イベント等についても、再開。

国内需要について
- 国内航空については、旅行支援等の影響もあり回復の兆しを見せている。
- 海外旅行についてまだ見通しが立たない中で、代替え案として沖縄が選ばれた。
- 「量から質」の観光推進。（滞在日数の増加、客単価のアップ）

インバウンドについて
- インバウンド再開に向けた受入体制の強化が必要。
- 多言語化表記の推進。
- キャッシュレスの普及。

クルーズ船受入について
- 令和４年度においては、寄港回数 1
- 国際クルーズ：令和４年度においては寄港なし。
- 国内クルーズ：令和４年６月「ぱしふぃっくびぃなす」が2年4か月ぶりに寄港。
- 令和５年は徐々に再開しており、現在で２２回のクルーズ船の寄港が見込まれている。
- 出体客の受入体制を整備が必要。（飲食・二次交通・人材不足 等）

3

＊各施策の課題・対策の抽出について

① 観光振興基本計画の各施策の実施主体ごとに、具体化シート（個別シート）を作成。

② 具体化シート（個別シート）を業務推進計画シートに転記して集約。

③ 業務推進計画シートの実施主体を統合し、評価シートを作成して、課題・対策を抽出。

① 具体化シート(個別シート)　② 業務推進計画シート　③ 評価シート

＊業務推進計画シート、評価シートの提供は、事務局（観光商工課）まで、お問い合わせ下さい。

E-mail　kanko@city.miyakojima.lg.jp　TEL ０９８０－７３－２６９０

4

２－６．その他観光推進に係る業務

（1）人手不足問題への対応

株式会社JTB総合研究所

資料5

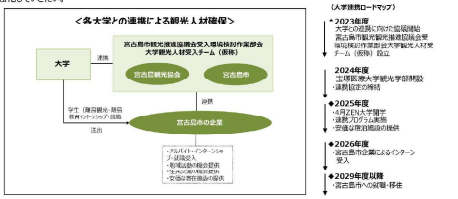
人手不足への取組み（大学連携）

2024年2月
株式会社JTB総合研究所

©2024JTBTourismResearch&ConsultingCo.AllRightsReserved.禁無断転載・複製

宮古島市における大学観光人材受け入れについて

宮古島市の課題のひとつである人材不足問題は、特に観光関連産業において著しい。
リゾートバイトなど短期的なアルバイト募集は、学生の夏休み期間中など一時的な人手不足の解決にはなるものの、企業が求める人材の供給源としては不安定さを免れず、またアルバイト募集コストが高み企業経営を圧迫しかねない。
安定的に人材を確保するには、就職を前提としたインターンシップの受入を強化べきであるが、大学とのパイプが形成されていない現状では、時間を要することが予想される。
これまで、宮古島市観光推進協議会受入環境検討作業部会で人材不足問題の議論を行ってきたが、大学との連携によるインターンシップ受入が、宮古島市が抱える観光人材不足の解決策として有効と考えられる。
2024年4月には宮古島市に宝塚医療大学観光学部が開設されることから、2024年度以降、全国各大学との連携を強化していきたい。



©2024JTBTourismResearch&ConsultingCo.AllRightsReserved.禁無断転載・複製

２－７．その他の追加提案資料

（1）観光アンケートにおける販売機会ロスの分析

株式会社JTB総合研究所

資料２-２

宮古島市観光客アンケートにみる
旅ナカ消費の販売機会ロス

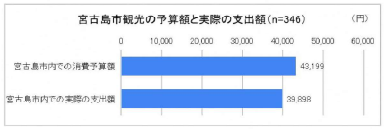
2024年2月
株式会社JTB総合研究所

©2024JTBTourismResearch&ConsultingCo.AllRightsReserved.禁無断転載・複製

1

観光客アンケートにみる旅行前の予算額と実際の消費額

宮古島市観光予算額は、平均43,199円で、実際の消費額は39,898円であり、3,301円少ない。
これは、観光客側からみると、もともと予定していた交通、飲食、土産などの予算に対して実際には支出をしなかったということになる。宮古島市にとってその金額は販売機会ロスであり、令和4年度の空路入域観光客数（736,639人）に乗じて算出すると、販売機会損失額は約24.3億円にのぼる。



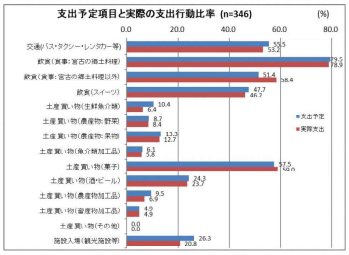
宮古島市観光客アンケート
- 対象：空路観光客
- 調査地点：　①宮古空港　②下地島空港
- 実施期間：
  ①宮古空港：2023年12月18日～12月20日
  ②2023年12月11日-12月15日
- 回収サンプル数
  ①宮古空港：　268件
  ②下地島空港：　78件

©2024JTBTourismResearch&ConsultingCo.AllRightsReserved.禁無断転載・複製

2

販売機会ロスを生じている支出項目

当初の予定に比べ実際の支出が少ないのは、「施設入場（観光施設等）」「土産買い物（生鮮魚介類」「土産買い物（農産物加工品）」「交通（バス・タクシー・レンタカー等）」などである。
飲食では郷土料理に販売機会ロスがあり、その分の消費が郷土料理以外の飲食に流れている。



宮古島市観光客アンケート
- 対象：空路観光客
- 調査地点：　①宮古空港　②下地島空港
- 実施期間：
  ①宮古空港：2023年12月18日～12月20日
  ②2023年12月11日-12月15日
- 回収サンプル数
  ①宮古空港：　268件
  ②下地島空港：　78件

©2024JTBTourismResearch&ConsultingCo.AllRightsReserved.禁無断転載・複製

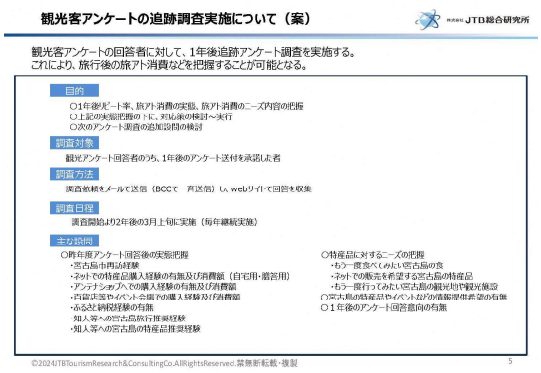
3

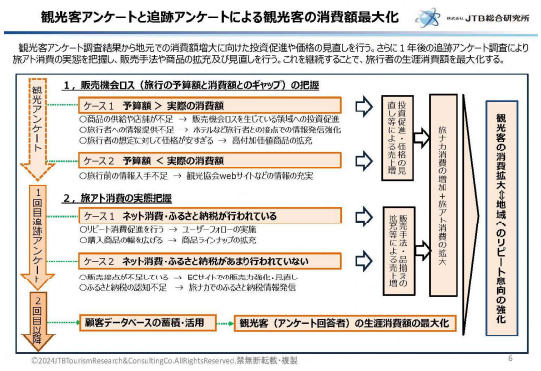
株式会社JTB総合研究所

	支出予定	実際支出	差異
交通（バス・タクシー・レンタカー等）	55.5	53.2	-2.3
飲食（食事：宮古の郷土料理）	79.5	78.9	-0.6
飲食（食事：宮古の郷土料理以外）	51.4	58.4	6.9
飲食（スイーツ）	47.7	46.2	-1.4
土産　買い物（生鮮魚介類）	10.4	6.4	4.0
土産　買い物（農産物：野菜）	8.7	8.4	-0.3
土産　買い物（農産物：果物）	13.3	12.7	-0.6
土産　買い物（魚介類加工品）	6.1	5.8	-0.3
土産　買い物（菓子）	57.5	59.0	1.4
土産　買い物（酒・ビール）	24.3	23.7	-0.6
土産　買い物（農産物加工品）	9.5	6.9	-2.6
土産　買い物（畜産物加工品）	4.9	4.9	0.0
土産　買い物（その他）	0.0	0.0	0.0
施設入場（観光施設等）	26.3	20.8	-5.5
体験メニュー	19.9	18.2	-1.7
その他	5.2	6.9	1.7
全体	100	100.0	100.0

©2024JTBTourismResearch&ConsultingCo.AllRightsReserved.禁無断転載・複製

4





3　総括

全国的に新型コロナウイルス感染症影響から脱却しつつある中で、宮古島市においても空路観光客に関しては 2022 年夏ころから回復を見せており、特に 2023 年 2 月以降は 10 か月連続して過去最高の入域観光客数となっている。

そうした中2023年6月には329の客室を有するヒルトン沖縄宮古島リゾートが開業し、宮古島市の人気が高まる中で、空路観光客の伸びはさらに期待されるところとなっている。

一方、観光業においては引き続き人手不足問題が深刻化しており、飲食店、宿泊施設、交通事業者にとっては、人材の確保が喫緊の課題となっている。

宮古島市をとりまくそのような環境変化に対応するため、今年度からは宮古島市観光推進協議会の作業部会について、牧山公園活用検討作業部会と受入環境検討作業部会の二つに絞り、宮古島市の観光振興計画推進のための最重要課題として、牧山公園のリニューアルと、観光客数増加に伴う人手不足問題と、上下水道やごみなどの生活インフラに予測される変化に係る課題整理を行ってきた。

観光客数が回復する中で、市内の環境整備についてもこの数年課題として取り上げられてきており、特に老朽化がはなはだしい牧山展望台の改修を中心とする牧山公園エリアのリニューアルは、宮古島市観光の満足度の維持向上に欠かせないテーマとなっている。昨年度実施したサウンディングに引き続いて今年度は専門家のアドバイスに基づき、展望台やテラスビジネスの先進事例調査を行ってきた。来年度はいよいよ基本構想をとりまとめ、2027 年度に展望台をリニューアルオープンし、2029 年度牧山公園全体のグランドオープンを目指すことになっている。

また、人手不足問題の解消では、来年度から開学する宝塚医療大学宮古島キャンパスとの連携や、2025 年度に開学予定の ZEN 大学との連携により、学生のアルバイトからインターンシップ、さらに就職までの一貫したプログラムの実施により、確実な人材確保を視野に入れて準備を進めてきている。

これらの取組みは、増加し続ける観光客への対応という観点で欠くことのできない取組であるが、もう一方で宮古島市民が生活する上での基盤となっている交通や生活インフラの維持にも目を向ける必要がある。観光客の増加が市民生活を脅かすようなことのないように、市民生活の基盤となるインフラや資源に対するモニターを続けていく必要がある。

また、宮古島市は、「持続可能な観光」を実現していくため、沖縄県や県内他市町村と歩調を合わせて法定外目的税導入の検討に入った。こちらは、法定外目的税（宿泊税）庁内検討委員会及び法定外目的税（宿泊税）庁内検討作業部会の方で、議論を重ねていくことになっている。

令和５年度
宮古島市観光マネジメント業務報告書

令和６年３月

発行：宮古島市 観光商工スポーツ部 観光商工課
〒906-8501　沖縄県宮古島市平良字西里 1140 番地
TEL　0980-72-3751